

令和5事業年度

公立大学法人尾道市立大学
業務の実績に関する評価結果

令和6年7月

尾道市公立大学法人評価委員会

尾道市公立大学法人評価委員会 委員名簿

(50音順、敬称略)

分野	氏名	現職	備考
財務	瀬戸 務	瀬戸務税理士事務所	
大学運営	高垣 孝久	尾道商工会議所常議員 商業委員会委員長	
地域貢献	豊田 雅子	NPO法人尾道空き家再生プロジェクト代表理事	
教育研究	◎萩原 泰治	岡山商科大学経済学部教授	
教育研究	藤井 保	学校法人広島女学院 監事	

◎ 委員長

1 年度評価の方法について

評価の基本方法

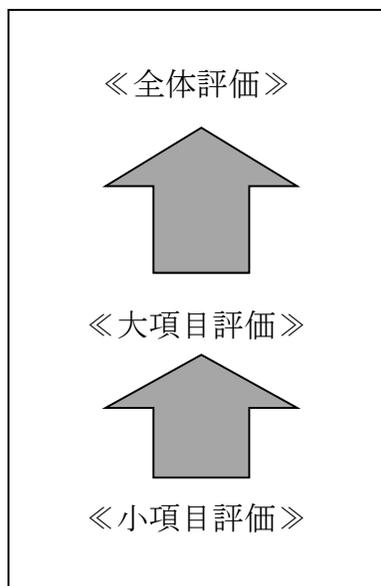
- 中期目標達成に向けた事業の進捗状況を確認する観点から評価する。
- 先進的・特徴的な取組みや運営の改善を積極的に評価する。
- 法人化を契機とする大学改革の取組みを支援する観点から評価する。
- 取組み状況等を市民に分かりやすく示す観点から評価する。

評価の方法

- 年度評価は、「全体評価」と「項目別評価」により行う。
- 「全体評価」は、「項目別評価」の結果を踏まえ、中期計画の進捗状況全体について、次の事項を総合的に評価する。

- (1) 理事長のリーダーシップによる機動的・戦略的な大学運営を目指した取組み
- (2) 社会に開かれた大学運営を目指した取組み
- (3) 大学の教育研究、地域貢献等における特色ある取組み
- (4) 業務運営等の改善及び効率化並びに財務状況の改善に関する取組み
- (5) 自己点検・評価及び情報公開に関する取組み
- (6) その他必要と認められる事項

- 「項目別評価」は、「小項目評価」及び「大項目評価」により行う。
- 「小項目評価」は、法人の自己評価結果の検証・評価を行う（4段階）。
- 「大項目評価」は、「小項目評価」の結果を踏まえ、中期計画の大項目ごとに総括評価を行う（5段階）。



【小項目評価】

評点

- 4 年度計画を上回って実施している。
- 3 年度計画を順調に実施している。
(達成度が概ね9割以上)
- 2 年度計画を十分に実施していない。
(達成度が概ね6割以上9割未満)
- 1 年度計画を実施していない。
(達成度が6割未満)

【大項目評価】

評点

- S 特筆すべき進行状況にある。
(評価委員会が特に認める場合)
- A 年度計画を順調に実施している。
(全て3以上)
- B 年度計画を概ね順調に実施している。
(3以上の割合が7割5分以上)
- C 年度計画がやや遅れている。
(3以上の割合が7割5分未満)
- D 重大な改善事項がある。
(評価委員会が特に認める場合)

ただし、評価委員会において評価段階を1段階上下させることができる。

- 教育研究の特性に配慮すべき項目については、法人から提出された業務実績報告に基づき、事業の外形的・客観的な進捗状況の確認を行った。
- 今回の年度評価の結果が今後の法人及び大学運営に積極的に活用され、「地域に根ざした、市民から信頼される大学」の実現に向けて、教育、研究及び地域貢献が一層充実することを期待する。

2 全体評価

尾道市立大学は、「知と美の探究と創造」を建学の基本理念として、経済情報学部と芸術文化学部の2学部を置く公立大学法人として平成24年4月に設立された。

大学を取りまく環境は、少子化と人口減少、グローバル化の進展によって大きく変化している。その中で、次代を担う若者が、確かな学力と豊かな教養、自主的に考え行動できる主体性と積極性をもつことがますます重要になっている。これを実現するために尾道市立大学は、少人数教育の特長を生かし、「何事にも好奇心を持ち、積極的にチャレンジできる学生が育つ大学」「一人一人が成長を実感できる大学」「地域に入り、地域で学び、地域に還していく大学」の実現を目指している。

令和5年度は法人設立後12年度、第二期中期計画の最終年度であり、各分野における重点取り組み項目を再確認し、中期目標を達成するため、中期計画に基づいた教育、研究、学生支援、地域貢献、国際交流、自己点検・評価の各分野における重点課題を明確にしなが、令和5年度年度計画の着実な実施に向けて、理事長を中心に自律的で効果的な事業実施が進められた。

令和5事業年度の業務の実績については、6つの大項目のうち、3項目がA評価（年度計画を順調に実施している。）、3項目がB評価（年度計画を概ね順調に実施している。）となっており、特徴のある取り組みとして、次の事項が挙げられる。

- ① 1年生を対象としたTOEIC Bridge テストを継続実施し、データ収集により「総合英語 I」のクラス分けやTOEIC 受験への動機付けに役立てた。
- ② 新入生オリエンテーションで「リメディアル数学」の受講を強く呼びかけ、高校数学における未履修分野を補い、大学数学の基礎に取り組みさせた。また、新たな試みとして、「リメディアル数学」の受講対象者が多い推薦入試の合格者向けの入学前課題を改訂した。
- ③ 「数理・データサイエンス・AI 入門」を新設し、学生のデータの活用や人工知能の社会への応用事例に関する知識を高め、最先端の技術への理解を深めた。
- ④ 内部質保証を担う組織体制の強化のために質保証委員会を設置し、教員に対する業績評価を実施し、研究費の配当及び表彰等において活用し、表彰を受けた教員を本学 Web サイトに公開した。
- ⑤ Web サイトや Instagram 等の SNS において、イベント等の情報の公開を迅速に行い、アクセスしやすいように「尾大通信」や「大学案内」等の紙媒体に、Web サイトにアクセスできる QR コードを掲載した。

令和5年度は第二期中期計画最終年にあたることから、第二期中期計画に掲げた重点課題の達成に向け、これまでの取組みにより明らかになった重点的項目及び課題を踏まえて年度計画の着実な実施に取り組んでおり、年度計画を概ね順調に達成するとともに、中期計画全体の推進が図られたものと評価できる。

第二期中期目標で明らかになった重点項目及び課題を踏まえて、第三期中期目標の実施に向け、中期計画を推進されることを期待する。

[大項目評価結果]

	S 特筆すべき進行状況	A 計画どおり	B 概ね計画どおり	C やや遅れている	D 重大な改善事項あり	小項目評価結果
第4 教育研究等の質の向上	S	A	B	C	D	4 (1 2) 3 (8 8) 2 (6)
第5 地域貢献及び国際交流	S	A	B	C	D	4 (2) 3 (8) 2 (1)
第6 業務運営の改善及び効率化	S	A	B	C	D	4 (2) 3 (3)
第7 財務内容の改善	S	A	B	C	D	3 (3) 2 (1)
第8 自己点検・評価及び情報の提供	S	A	B	C	D	3 (4)
第9 その他業務に関すること	S	A	B	C	D	3 (5)

中期目標・中期計画の主要な進捗状況等については、次のとおりである。

(1) 理事長のリーダーシップによる機動的・戦略的な大学運営を目指した取組み

次の事項については、理事長のリーダーシップによる取組みとして評価できる。

- ア 新入生オリエンテーションで「リメディアル数学」の受講を強く呼びかけ、高校数学における未履修分野を補い、大学数学の基礎に取り組んだ。
- イ 内部質保証を担う組織体制の強化のために質保証委員会を設置した。
- ウ 令和5年度大学院入学生から副指導教員を定め、研究指導計画書の作成・提出を行うことで、より指導を手厚くした。

(2) 社会に開かれた大学運営を目指した取組み

次の事項については、社会に開かれた大学運営を目指した、市民や社会に対する説明責任を果たす取組みとして評価できる。

- ア 「おのみち文化スタディ」の対面実施を再開し、外国人留学生と日本人学生の間で交流の機会を創出し、異文化理解を深める取組みを行った。
- イ 尾道商工会議所及び尾道市商工課と連携し、早期から地元企業に対する理解を深めるランチタイム業界研究会を計8回開催した。
- ウ 美術学科において、フィールド演習やプレゼンテーション課題等の地域環境を活用したプログラムを積極的に実施するとともに、近隣企業と授業における継続的な連携を開始したことは評価できる。

(3) 大学の教育研究、地域貢献等における特色ある取組み

次の事項については、大学の教育研究、地域貢献等における特色ある取組みとして評価できる。

- ア 経済情報学部のファカルティラウンジにて科学研究費補助金申請に関係する資料集を公開し、学科内で情報を共有し、科学研究費補助金への申請を促した。
- イ 近年、履修者が増加傾向にある「尾道学入門」について、学生の理解をより深めるため、経済、空き家再生、美術、文学等、テーマごとにまとめた形で講義を再構成し、令和5年度から市民参加を再開した。
- ウ 市民向けのコンピュータ公開講座及び公開形式の情報科学研究会を開催した。

(4) 業務運営等の改善及び効率化並びに財務状況の改善に関する取組み

次の事項については、業務運営等の改善及び効率化並びに財務状況に関する取組みとして評価できる。

- ア 内部質保証を担う組織体制の強化のため、質保証委員会を設置し、質保証委員会と自己点検・評価委員会との関係や今後の自己点検・評価のあり方について検討した。
- イ researchmap の教育研究活動報告書について URL 添付による代替も可能とすることにより、教育研究活動報告書の記入が簡素化され、教員の負担軽減に繋がった。
- ウ 前年度に引き続き Teams にて、外部資金の獲得に関する情報提供を行い、各教員が採択された申請書を閲覧できるオープンな環境作りを実施した。

(5) 自己点検・評価及び情報公開に関する取組み

次の事項については、自己点検・評価及び情報公開に関して必要な取組みを行っていると思われる。

- ア 各学科委員会から第二期中期計画の実績について報告を受け、内容確認後実績報告書に取りまとめた。また、中期目標中期計画策定ワーキングを中心に作業を進め、第3期中期計画を策定した。
- イ Web サイトや Instagram 等の SNS において、イベント等の情報の公開を迅速に行うとともに、尾大通信や大学案内等の紙媒体に QR コードを掲載し、手軽にアクセスできるようにした。
- ウ ホームページにおけるクラブ・サークル紹介ページの様式を統一する全面的な更新を行い、クラブ等の活動を適切に広報した。

(6) その他必要と思われる事項

次の事項については、必要な取組みとして評価できる。

- ア 給与及び賞与支給日には、当日がノー残業デーであることをポータルサイトで周知し、過重労働防止に努めるとともに、ワーク・ライフ・バランスの重要性についても啓発を図った。
- イ 学外のオンライン研修への参加を促すと共に、学内においても、オンラインによる研修を実施し、教職員の能力向上に取り組んだ。

3 項目評価

第4 教育研究等の質の向上

評価結果 B 年度計画を概ね順調に実施している。

評価対象項目の合計106項目のうち、3以上の割合が7割5分以上であることから、大項目評価としてはB評価と認められる。

〔小項目評価結果〕

	評価対象項目数	1 大幅に下回っている	2 十分に実施していない	3 順調に実施している	4 上回って実施している
教育の質の向上に関する目標	69	0	4	57	8
研究の質の向上に関する目標	16	0	1	14	1
学生の支援に関する目標	21	0	1	17	3
合計	106	0	6	88	12

【特記事項】

1 教育の質の向上に関する目標

(1) 質の高い教育課程の編成

ア デジタル化社会の基礎知識を身に付ける機会を与えるため、自然科学科目「数理・データサイエンス・AI 入門」を新設したことは評価できる。

イ TOEIC Bridge テストを継続し、データ収集によりクラス分けやTOEIC 受験への動機付けに役立てたことは評価できる。また、入学後対面で実施していたテストを入学前のオンライン受験に変更することにより、臨時時間割日程の短縮等が図れたことは評価できる。

- ウ 全ての教養教育科目の科目ナンバリングを完成させ、教養教育科目の全体像と各科目の位置付けを明確にしたことは評価できる。
- エ 新たな試みとして「リメディアル数学」の受講対象者が多い推薦入試の合格者向けの入学前課題の改訂や、成績不良者の早期把握と情報共有に努めたことは評価できる。
- オ 「スマホ出席」導入による出欠登録の徹底により学生の登校状況を可視化し、要対応者の早期発見に繋がったことは評価できる。

(2) 幅広い視野と豊かな人間性をもち、国際的に通用する人材の育成

- ア 「数理・データサイエンス・AI 入門」の新設により、最先端の技術への理解を深めたことは評価できる。
- イ 国立嘉義大学応用経済学科とのダブルディグリー協定を改定し、本学学生が留学先で学位を取得できる新たなプログラムをスタートさせたことは評価できる。
- ウ 新入生導入教育プログラム「おのみち文化スタディ」の街歩き企画を通じて、外国人留学生と日本人学生の間で交流の機会を創出し、異文化理解を深める取組みを行ったことは評価できるが、更なる環境作りに努めていただきたい。

(3) 専門的知識と能力を身につけ、社会に貢献できる人材の育成

- ア GPA データを可視化し、ゼミ生の選択指標や保護者への通知等に活用していることは評価できる。
- イ 尾道商工会議所及び尾道市商工課との連携事業として、在学期間中の早期から地元企業に対する理解を深めることを目的としたランチタイム業界研究会を8回開催したことは評価できる。
- ウ 新たに「三省合意」の取組みに移行し、産学連携による課題解決型のインターンシップ・プログラムを構築し、参加企業を38社から52社に増やしたことは評価できる。

(4) 教育力の向上

- ア 新設実施を見送った「近現代文学基礎演習」についても教員間での相互観察・情報提供を行っていただきたい。
- イ オンラインによる研修会を継続実施し、参加者・講師と交流する機会を設けたことは評価できる。今後も教育の質の向上のためファカルティ・ディベロップメント活動を実施していただきたい。
- ウ 自己評価カルテの入力形式等や、学修状況を数値化するなど、学生や教員の意見を取り入れた改善に着手したことは評価で

きる。

(5) 学生の受入れ

ア 受験生向けの動画作成にあたり、在籍する学生の声を動画化し、受験生にとって親身に捉えやすい内容に工夫していることは評価できる。

イ オープンキャンパスの Web 予約システム導入により開催後の効果的な広報活動を展開したことは評価できる。

ウ 美術学科の学生のデザインを大学の広報活動に積極的に活用し、高校性にアピールしたことは評価できる。

(6) 大学院教育

ア 経済情報研究科において、副指導教員を定め、研究指導計画書の作成・提出を行うなど、手厚い指導に努めていることは評価できる。

ウ 美術研究科において、大学院生個々の研究指導計画に即した指導を行うためディスカッション、ミーティング等のコミュニケーションの充実を図ったことは評価できる。

エ 大学院修了生である研究科在籍者の体験談等の掲載記事を追加するなど、Web サイトの大学院ページの充実を図ったことは評価できる。

2 研究の質の向上に関する目標

(1) 研究の活性化

ア 国立嘉義大学管理学院との合同カンファレンスを開催し、両校の研究発表を収録した『経済情報論集』を刊行し、研究の活性化に取り組んだことは評価できる。

イ 『尾道市立大学日本文学論叢』への論文掲載や、高校生とのビブリオバトルの実施、他学科教員との共同研究による公開研究会の実施など、幅広く取り組んだことは評価できる。

ウ Web サイトの教員総覧内に researchmap に繋がるリンクを新たに設け、教育研究業績の公開に繋げたことは評価できる。

エ 「オープンスタジオ」の利用申請に関する規約を整備し、学生の作品の発信の場、教育の場として利活用したことは評価できる。

(2) 研究の実施体制

- ア ファカルティラウンジでの公開や、教授会等を通じての情報共有により、科学研究費補助金への申請を支援したことは評価できる。
- イ サバティカル制度利用について検討を行い、国内大学での研究も可能であることを確認し、体制を整えたことは評価できる。
- ウ ノートルダム清心女子大学との学科会交流活動・共同研究について、課題を整理し、推進に努めていただきたい。

3 学生への支援に関する目標

(1) 学習の支援

- ア 自己評価カルテの入力形式等の見直しや、学修度の数値化に着手したことは評価できる。
- イ ポータルサイトを活用した定期的なモニタリングにより、学生へのフォロー体制を強化し、問題の解決に繋げることができたことは評価できる。

(2) 学生生活の支援

- ア 学生生活実態調査により判明した“食”の重要性について、食糧支援事業を行い、意識啓発を図ったことは評価できる。
- イ キャリアサポートセンターと学科の情報共有を行い、双方が協力して就職活動支援の取組みを行ったことは評価できる。

(3) キャリア形成の支援

- ア 「三省合意」の新たな取組みに移行したインターンシップ・プログラムへの参加企業が前年度38社から52社に増加し、延べ55人が就業体験を行ったことは評価できる。
- イ 参加者数が減少している実践系のワークショップや講座について、より効果的なワークショップとなるよう開催時期等の検討を行っていただきたい。

(4) 経済的支援

ア 書面及びポータルサイト等により修学支援措置を周知し、制度の利用を促進したことは評価できる。

第5 地域貢献及び国際交流に関する目標

評価結果 B 年度計画を概ね順調に実施している。

評価対象項目の合計11項目のうち、3以上の割合が7割5分以上であることから、大項目評価としてはB評価と認められる。

[小項目評価結果]

	評価対象項目数	1 大幅に下回っている	2 十分に実施していない	3 順調に実施している	4 上回って実施している
地域貢献に関する目標	6	0	0	5	1
国際交流に関する目標	5	0	1	4	0
合計	11	0	1	9	1

【特記事項】

1 地域貢献に関する目標

(1) 地域社会との連携・協働

ア 「尾道学入門」や教養講座など全て対面で開催し、市民との交流・学修機会の提供として多くの参加者が得られたことは評価できる。今後も定期的実施していただきたい。

イ 学生の理解をより深めるため、講義内容を、テーマごとにまとめた形で講義を再構成したことは評価できる。

(2) 地域への学習機会の提供

ア 新型コロナウイルス感染症の第5類への移行に伴い、予約制や人数制限により安心して参加できる環境づくりに努め、多数の

講座を対面開催したことは評価できる。

2 国際交流に関する目標

(1) グローバル化の推進

ア 国立嘉義大学にダブルディグリー学生として編入学し、教員のみならず学生による嘉義尾道双方向の往来が成立したことは評価できる。

イ 留学生サポーター制度が順調に機能していることは評価できる。引き続き、留学生と日本人学生が交流を深め、留学生生活がより充実したものとなるように、双方の支援を継続していただきたい。

第6 業務運営の改善及び効率化に関する目標

評価結果 A 年度計画を順調に実施している。

評価対象項目の合計5項目のうち、3又は4の割合が100%であることから、大項目評価としてはA評価と認められる。

[小項目評価結果]

	評価対象項目数	1 大幅に下回っている	2 十分に実施していない	3 順調に実施している	4 上回って実施している
業務運営の改善及び効率化に関する目標	5	0	0	3	2
合計	5	0	0	3	2

【特記事項】

(1) 教育研究組織の充実

ア 令和4年度受審の認証評価の指摘を受けて、組織体制の強化のために質保証委員会を設置したことは評価できる。

(2) 業績評価制度の確立

ア researchmapの教育研究活動報告書への反映により、教員の負担軽減に繋がったことは評価できる。

(3) 事務処理の改善・効率化

ア コロナ禍における対策等を活用し、社会状況に対応する業務実施に取り組んだことは評価できる。

第7 財務内容の改善に関する目標

評価結果 B 年度計画を概ね順調に実施している。

評価対象項目の合計4項目のうち、3以上の割合が7割5分以上であることから、大項目評価としてはB評価と認められる。

[小項目評価結果]

	評価対象項目数	1 大幅に下回っている	2 十分に実施していない	3 順調に実施している	4 上回って実施している
財務内容の改善に関する目標	4	0	1	3	0
合 計	4	0	1	3	0

【特記事項】

1 財務内容の改善に関する目標

(1) 資源の適正配分

ア 新図書館建設に向け、関連経費の予算の重点化を図ったことは評価できる。

(2) 外部資金等の獲得

ア Teams による情報提供や、採択された申請書を閲覧できる環境づくり等により、外部資金の獲得、採択率の向上に取り組んだことは評価できる。

第8 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標

評価結果 A 年度計画を順調に実施している。

評価対象項目の合計4項目のうち、3の割合が100%であることから大項目評価としてはA評価と認められる。

[小項目評価結果]

	評価対象項目数	1 大幅に下回っている	2 十分に実施していない	3 順調に実施している	4 上回って実施している
自己点検・評価及び情報の提供に関する目標	4	0	0	4	0
合 計	4	0	0	4	0

【特記事項】

1 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標

(1) 自己点検・評価の充実

特記事項なし

(2) 情報公開及び広報活動の推進

ア Web サイトや Instagram 等を活用したイベント情報の公開や、大学案内等の紙媒体に Web サイトにアクセスできる QR コードを掲載したことは評価できる。

第9 その他業務運営に関する重要目標

評価結果 A 年度計画を順調に実施している

評価対象項目の合計5項目のうち、3の割合が100%であることから大項目評価としてはA評価と認められる。

[小項目評価結果]

	評価対象項目数	1 大幅に下回っている	2 十分に実施していない	3 順調に実施している	4 上回って実施している
その他業務運営に関する重要目標	5	0	0	5	0
合計	5	0	0	5	0

【特記事項】

(1) 施設・設備の整備と活用

ア キャンパス整備計画に沿った教育研究環境整備に努めていただきたい。

(2) リスクマネジメントの強化及び法令遵守の推進

ア ポータルサイトにおいてノー残業デーを周知し、過重労働防止とワーク・ライフ・バランスの重要性の啓発を図ったことは評価できる。